

セカンドステージ

企業を定年退職した後にはどのような人間関係を築くか。地域に溶け込むのも一つの道だが、現役時代からの「社縁を、活用するの」も一法だ。とくに会社が補助金などで支えるOB会・社友会は気軽な交流の場。そこから同好会やボランティアへと翼を広げることが出来る。

退職者のOB会・社友会ほどの程度あるか。古いデータだが一九九二年の労働省(当時)の調査では、OB会がある企業は全体の約五割と少数。ただし従業員五千人以上の企業では七六%、千人以上・五千人未満では四三%がOB会を持っていた。大手を中心に整備されているのが現状だ。

だが新たにOB会を作る動きもある。福利厚生に詳しい労務研究所(東京)が昨年、企業・自治体の九十三OB会を調べたところ、九〇年以降設立の若いOB会は二〇%を占めた。

「会社にへばりつく時代ではない」といわれながらOB会は減っていない。「企業は退職者を生涯にわたる顧客と位置づけ、OB会を重視する傾向が強まっている」と同研究所相談役の近江谷栄樹さんは語る。外資系企業である日本テトラパック(東京)のテトラパック社友会も生まれたての組織だ。定年退職者が

交流豊かに

バラバラになって連絡が取れなくなるのは寂しい。企業のファンクラブ的な会を作ろうと役員会で一致。二〇〇四年一月に発足した。初代の会長は技術担当副社長を最後に〇三年秋に退職した高木宏治さん(63)。入会条件は転職者も多い事情を考慮し勤続五年以上にした。現在の会員は七十七人。忘年会や暑気払いなどの行事に加えて、新製品モニターのような役割を果

ター基幹システムの入れ替え作業中で人手不足。その穴をOB会が埋めている。充てん機の使用法指導、工場出荷の仕事などにOB五一人が契約社員として昨夏からかかわっている。

一方、セイコーエプソン(長野県諏訪市)の社友会は設立三十年。多様な同好会が魅力の一つだ。代表世話人の横山征雄さん(63)は「新しい趣味に挑戦するなら、社友会の同好会が気軽でいい」と話す。会には謡曲、茶道など十六の同好会があり、年間延べ五千人近くが活動に参加。横山さん自身も、三年前にトレッ

新たに設立の動きも

たしているのが特徴だ。会員になるとテトラパックを使った新商品セットが年に二〜三回、会社から送られてくる。飲料を飲んで会員は社友会ホームページの掲示板に感想を書く。値段が高いとか、味が少し酸っぱいといった「OBからの反応は会社にとって重要な情報。参考にしてもらっている」と高木さん。もつ二つの役割は人材の供給だ。同社はコンピュー

会社OB会

キング同好会(二十三)人をつくり、月に一回のペースで里山を歩いている。今後の課題はボランティア活動との連携だ。OBには災害ボランティアや環境保護活動をしている人たちも多い。「これらの情報を提供し、一緒に活動する方策を考えたい」という。

気軽に同好会 ■ 社会貢献担う

会費負担など課題

社友会の会員は現在千三百五十七人。団塊世代などの大量退職で、二〇年には会員は倍以上の三千人に膨らむ見込みだ。社友会経費の七割は会社が補助しており、会員増に伴い企業負担も膨らむ。こうした財政問題も検討課題だ。

企業だけでなく、OB会にとっても「社会貢献」は企業のOB会は現役時代の上下関係を引きずりがちで、嫌う人もいる。そこで個別企業の枠を超えたOB組織も生まれた。その一つが日本セカンドライフ協会(東京)の「JASSくらぶ」だ。団体加入が原則で現在は百二十二社が参加。その企業の退職者は全部で九十三あるサークルの活動

キーワードだ。設立四十年を昨年迎えた朝日生命社友クラブ(約千八百人)は新たに会則に社会貢献への協力を盛り込んだ。その第一弾として昨夏、朝日生命保険(東京)が実施する福祉団体などへの寄付活動に協力。社友クラブだけで二百七十六万円を集めた。

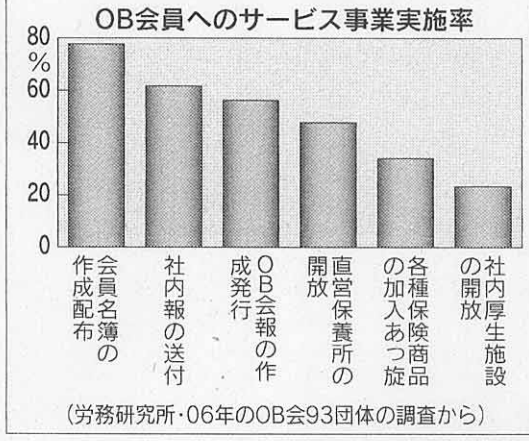
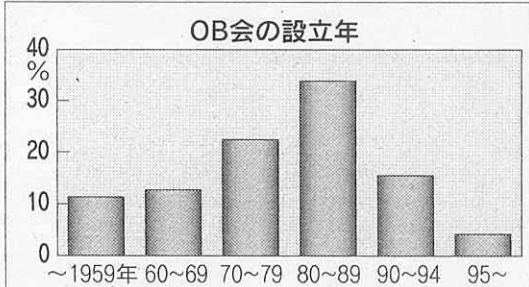
さん(66)は「何はともあれ、若いときに一緒に苦労した人たちと思えば話をするのが一番の楽しみ」と屈託がない。企業のOB会に過大な期待をするのは現実的ではないが、最小限の人間関係維持の場、大げさに表現すれば「人脈の安全網」として定年後の人生を支えると思ってもよいだろう。

「企業横断型」も登場

に加われる。伊藤武典専務理事によれば、活動参加者は年間延べ四万七千人(〇五年度)に上る。個人加入の組織もある。人材派遣会社のパソナ(東京)などが二年前に作ったNARP(同)だ。ナープクラブを運営し現在の会員は約五千人。入会費一万円と年会費六千円で、レストラン

や宿泊の割引、就労支援などの特典が得られる。「OB会などを通じ人を募っているが、企業は退職者を大事にしないと、新卒採用や売り上げに響く」といった意識が強い。企業イメージ上からもOBの処遇を気にしている」と中村秀雄NARP社長。OBビジネスに期待をかける。

(編集委員 須貝道雄)



セイコーエプソン社友会の横山代表世話人(右端)はトレッキング同好会をつつた(2005年夏、長野県の天神岳で)